

平成30年度

優れた教育活動表彰
受賞者（団体）名簿

島根県教育委員会

1 学校（7校）

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
松江市立来待小学校	岸本 康宏	<p>平成22年度から3・4年生が身近な来待川と宍道湖の環境調査を通じた学習活動に取り組んでいる。</p> <p>この取組は次年度の学年に引き継がれ、先輩の学びの上に自分たちの学びを重ねていくことが同校の伝統となっている。</p> <p>こうした取組は、総合的な学習の時間の目標を達成するものであるほか、ふるさと教育がめざす姿であり、新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」に通じるものとなっている。</p>
出雲市立塩津小学校	井上 睦子	<p>平成8年度から子ども神楽「塩津っ子倶楽部」を立ち上げ、学習発表会や介護施設、地域行事において公演を行っている。</p> <p>全国子ども神楽サミットや中国地区PTA研修大会等、1,000人を超える観客の前で演じる機会もあり、児童には堂々と発表する力がついてきている。</p> <p>平成29年度からは総合的な学習の時間に位置付け、地域の保存会の方との交流によりふるさとを愛する気持ちや、地域課題の解決に向けて地域を元気にしていこうという気持ちの醸成に繋がっている。</p>
海士町立福井小学校 海士町立海士小学校	吉田 貴弘 平田 昭	<p>平成16年度から町及び町議会と連携し「子ども議会」の取組を続けている。</p> <p>総合的な学習の時間において、6年生が調べた町の現状や課題に対する自分の考えを町議会議場において町長や町執行部へ提案しており、自分でテーマを設定し、調査し、提案文にまとめ発表する一連の学習を小学校教育の集大成と位置付けている。</p> <p>これまでに児童から出された240提案のうち138提案が町によって実現、または実行中であり、児童の提案がまちづくりに結びついている。</p> <p>こうした取組は、児童の地域への理解を深め、愛着を育み、地域づくりへの参画意識を高めるふるさと教育の実践となっている。</p>
大田市立第三中学校	平田ゆかり	<p>55年間にわたり地域と連携して窯芸活動を実施している。</p> <p>PTA活動や公民館活動、保育園や特別支援学級の活動とも連携し、生徒が自分の作品を完成させることや地域の方々の作品を責任を持って焼き上げることで達成感や自己有用感を感じ、自尊感情の高まりに繋がっている。</p> <p>また、「世界遺産学習全国サミットinおおだ」では、生徒が分科会発表やポスターセッション、募金活動を通じて不特定多数の方々と広がりのある関わり合いを持つなかで大きな達成感や成就感を感じ、自信をもって関わる力や自身の思いや考えを豊かに表現する力の高まりに繋がった。</p>
安来市立第一中学校	村木 隆夫	<p>平成28・29年度に文部科学省人権教育研究指定及び県人権・同和教育研究指定を受けたことをきっかけとして、全教職員が部会に所属し、組織的に人権・同和教育の取組を進めている。</p> <p>これまでの取組により、生徒に他者と関わり協力して活動し課題を解決することの良さを実感する姿が見られてきた。また、体験活動においては集団の中で一人一人の役割を明確にして遂行させることで自己肯定感や自己有用感が生まれてきたほか、人権を尊重し差別を許してはいけないこと、そのためには正しい判断と行動が必要となることについて理解を深めてきている。</p> <p>教職員もそれぞれが「人権宣言」を掲げ、自らの人権感覚を高める取組を行ってきたほか、平成30年度においても人権・同和教育の一層の充実を図るため取組を継続している。</p>
島根県立浜田養護学校	道下 利治	<p>平成22年度より児童生徒や養護学校、さらに障がいのことについて広く知ってもらい、子ども達の卒業後の就業や地域生活を支援していただく方の増加を目的として「サポーター講座」を開設し、年間10回程度の企画を行っている。</p> <p>さらに受講修了生が主体的な活動を行う組織として「たまもりの会」を結成し、養護学校や近隣の子ども達を対象にイベントを開催するなど、「サポーター講座」での学びがさらに地元の人的財産として機能している。</p> <p>こうした取組は、地域のネットワークを作り、開かれた学校づくりや障がい者理解、支援に繋がる先駆的な取組となっている。</p>

(注) 上記の掲載順は、小・中・高・特別支援学校、かつ建制順による。

2 個人（10名）

氏名	所属・職	表彰の理由
おおはた あつお 大畑 篤郎	島根県立出雲農林高等学校 教諭	<p>カヌー部に対して科学的かつ効果的な指導を行い、全国高校総体優勝4回、国体優勝3回、世界ジュニア選手権出場1回、アジアジュニア選手権入賞3回などの成績に導いたほか、日本オリンピック委員会強化スタッフとして世界で戦える若手選手の育成に尽力している。</p> <p>また、生徒指導副部長や体育科主任として授業規律の確立のための指導を行うなど若手教員の見本となっているほか、寮務部長として寮の統合問題についても誠実かつ丁寧に対応し、学校運営にも貢献している。</p>
かとう ようこ 加藤 陽子	浜田市立三隅小学校 栄養教諭	<p>栄養教諭として、地元で捕獲されるイノシシ肉の使用した「命をいただく食育」や箸の使い方及び三角食べの指導、お弁当の日の取組の拡充などに精力的に取り組んできた。</p> <p>また、給食でのどんちっち三魚の提供や丸ごとアジ1匹の食べ方及び地域の水産物を学ぶ機会の設定、マアジの給食利用を市外へ広める取組など、地域の生産者や行政機関と連携し、地魚の魅力を味わうことができるよう多くの食育指導の研究・実践を行っている。</p> <p>こうした取組は、国や県の進める「つながる食育」の推進に貢献するとともに、若手教員の手本となっている。</p>
かんだ よしか 神田 良佳	松江市立第一中学校 養護教諭	<p>性に関する指導の研究結果の発表や、歯と口の健康に関する指導について食育と関連付けた研究を進めるなど、研究的な学校保健活動の推進に力を発揮し、また、勤務校における健康課題を的確にとらえ、課題解決に向けて学校全体で取り組む体制づくり、家庭や地域と連携した健康教育に尽力してきた。</p> <p>平成29年度から県小中学校養護教諭研究会会長を務め、若手教員の育成にも積極的に取り組んでおり、豊かな人間性と温かな指導力をもって、健康教育の推進に大きく貢献している。</p>
たけした はやみ 竹下 早美	島根県立江津高等学校 養護教諭	<p>日本赤十字社救急指導員としての資格を活かし救急法普及活動に熱心に取り組み、勤務校での救急体制の確立や教職員への指導は卓越したものがあつた。</p> <p>他校や地域での指導も積極的に行い、養護教諭への救急法指導では研修会での講師を務めるなど、県の中心的指導者として活躍している。</p> <p>平成29年度から県養護教諭研究連絡協議会会長として、後進の養護教諭の資質能力向上にも大きく貢献している。</p>
ながた あきら 永田 亮	島根県立松江商業高等学校 教諭	<p>情報処理科の指導を担当し、情報処理技術者試験において、これまでに多数の生徒を合格に導いてきた。特に今年度は基本情報技術者試験で9名が合格し、中国地区でも突出した実績となっている。</p> <p>また、コンピューター部の現顧問として、全国高等学校情報処理競技大会県大会での団体優勝や中高生国際ルビープログラミングコンテストでの特別審査員賞受賞などに導いた。</p> <p>県商業教育研究会では部会専門委員を務めたほか、平成27年度からはIT人材育成事業に携わり、生徒の県内IT企業への就職や県内大学理工学部への進学に繋げ、県内で活躍するIT人材の育成に貢献している。</p>

氏名	所属・職	表彰の理由
にしこおり 錦織 紀子	出雲市立多伎小学校 栄養教諭	<p>長年に渡り学校栄養職員や栄養教諭として児童生徒の心身共に健全な育成に向け、学校給食を通じた健康に配慮した食事のあり方等、給食指導の充実に取り組んできた。</p> <p>給食管理では、地場産物を活用した和食や伝統食を取り入れたり、危機管理マニュアルの策定に携わったりなどしている。食に関する指導では、給食時間に紙芝居や英語での食材指導等を毎日実施し、食の学習ノートなどを活用したティーム・ティーチング授業にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>平成25年から県学校栄養士会副会長、同会長を歴任し、平成30年度は県小中学校栄養教諭研究会会長として後進の資質向上に向け尽力している。</p>
のっ 野津 洋吉	島根県立松江工業高等学校 教諭	<p>ソフトテニス部の顧問として卓越した指導力を持ち、生徒の特性をよく理解し、特性を伸ばす指導を行っている。</p> <p>他県強豪校との交流を積極的に行い、同校ソフトテニス部を全国レベルの競技力に育て上げ、国体準優勝や県総体男子ソフトテニスで初の団体5連覇へ導いた。</p> <p>また、生徒には競技力のみならず、県代表としてふさわしい礼儀や態度が身につくように指導を行い、卒業後は指導者として教職の道を目指す生徒がいるなど、後継者の育成にも貢献している。</p>
みあけ 三明 美由喜	益田市立益田中学校 教諭	<p>英語科の指導に精力的に取り組む、授業力の高さのみならず他の教職員との協働性もあり、若手教員の模範となっている。益田市教育研究会では副会長を務め、益田市内の英語教員のリーダー的存在である。</p> <p>石西中学生英語コンテストでは最優秀学校賞の受賞に繋がったほか、小規模校であった前任校でも学校賞や特別賞の受賞に繋がっている。</p> <p>学校の規模や個々の能力に関わらず、努力すれば必ず成果が出ることを生徒に理解させるため、早期から粘り強く練習に取り組むように指導を続けたことが英語力の向上に繋がっている。</p>
みやふじ 宮藤 みどり	益田市立吉田南小学校 養護教諭	<p>長年に渡り児童及び教職員の健康管理や保健指導に積極的に取り組み、学校保健の向上に尽力した。</p> <p>自らの力で立つ子どもの育成に向け、特別活動にも積極的に取り組んでいる。なかでも児童の健康課題解決のため、テレビやスマートフォンなどのメディア接触を減らす「メディアコントロール（アウトメディア）活動」や食育の中心的存在として、教職員だけでなく、保護者や地域と連携しながら意欲的に取り組んできた。</p> <p>活動の成果を各種研修会等で報告し、後進の育成にも積極的に携わっているほか、自ら児童心理を学び、子どもの相談活動にも前向きに関わっている。</p>
やまさき 山崎 孝之	島根県立松江商業高等学校 教諭	<p>情報処理科の指導を担当し、情報処理技術者試験において、これまでに多数の生徒を合格に導いてきた。特に今年度は基本情報技術者試験で9名が合格し、中国地区でも突出した実績となっている。</p> <p>また、同校では、情報処理教育のリーダーとして若手教員の育成に尽力しているほか、コンピューター部の顧問時には、全国高等学校情報処理競技大会県大会での団体優勝や中高生国際ルビープログラミングコンテストでの特別審査員賞受賞などに導いた。</p> <p>県商業教育研究会では部会専門委員を務めたほか、平成27年度からはIT人材育成事業に携わり、平成28年度からはスモウルビー甲子園開催実行委員会ワーキンググループのメンバーとなるなど、プログラミング言語Rubyの普及と県内で活躍するIT人材の育成に貢献している。</p>

(注) 上記の掲載順は、五十音順による。